

藩の国産品「久留米絣」

少女が発案した意匠の織物

江戸時代、どこの家にも織機おりはたがあり、一家の着物はほとんどが手織りでした。「日ばた」といって、一日に一反織れるようになって一人前の時代。天明8(1788)年、久留米絣の創始者・井上伝が生まれます。7歳頃から木綿織りを始め、12歳頃には一人前の織り手に成長。精巧な縞模様しまを織っては人々に売り、家計を助けます。

14歳の頃には、数十人もの弟子を抱えるほどに。ある時、使い古した着物に色落ちした白い斑点があるのを見た伝は、興味を覚えます。着物を解きほぐし、木綿の模様を調べ、その通りに糸でくくった原糸を藍で染め、乾いた後に糸をほどこいて織り上げました。試行錯誤を繰り返して、見事白い斑点が布一面に現れました。これが久留米絣の始まりと言われています。

発明王・田中久重との出会い

伝の織物は、「あられ」や「雪ふり」と評判になり、人々は競って買い求めました。絵模様を織りたいと考えた伝は、近くに住む田中久重に相談。天才的な発明で「からくり儀右衛門」と呼ばれた久重は、織りや織機に工夫を加え、品質と技術の向上を図ったとされます。久重の手記には、文化10(1813)年絵がすりの発明」と書かれています。

伝の弟子は、1000人を超え、その技術は藩領全体に広がります。元治元(1864)年、久留米藩は、絣を「国産品」に指定し、藩外の流出には税をかけます。一人の少女が発明した久留米絣は、藩の経済を支え、久留米を代表する伝統産業として継承されていきました。

①文化財保護課(☎0942・309225、FAX 0942・309714)

久留米歴代藩主

- 初代 豊氏とようじ
- 二代 忠頼ただより
- 三代 頼利よりとし
- 四代 頼元よリモト
- 五代 頼旨よりむね
- 六代 則維のりふさ
- 七代 頼僮よりゆき
- 八代 頼貴よしか
- 九代 頼徳よりのり
- 十代 頼永よりとお
- 十一代 頼成よしかげ

は今回のモノ語りと関わる藩主

▶井上傳復元絣「十八文様」(久留米絣技術保存会所蔵)



▲久留米絣始祖機織の図(久留米絣技術保存会所蔵)

重要無形文化財
久留米絣作品展
2021
10/7(土)▶10/10(日)
時間 10時~17時
(最終日16時まで)
会場 アクロス福岡2F
安楽亭ギャラリー
久留米市久留米区久留米1-1-1
アクロス福岡2F

入場無料

主催 久留米市文化財保護委員会
共催 久留米市教育委員会
後援 福岡県教育委員会
福岡県文化財保護委員会
福岡県立美術館
久留米市教育委員会

